「日々の理科」（第 658 号） 2016（H28),-4,25

「カラスノエンドウの教材性（１）」

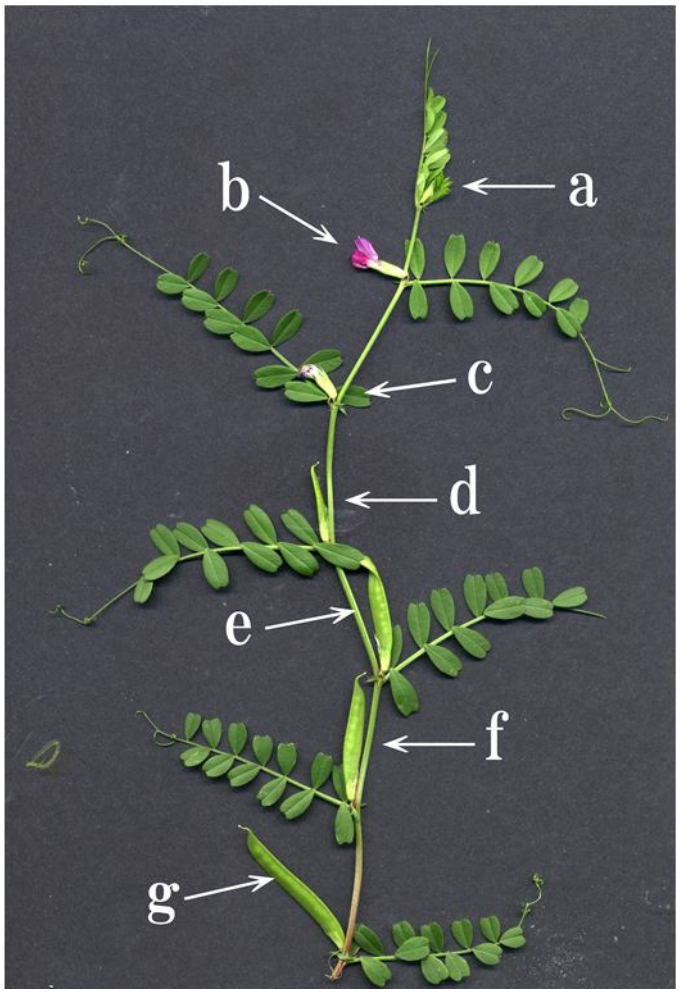
お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

４月から５月にかけて、空き地や道端のちょっとした土地に、赤紫色の小さな花を見かけることがある。大抵は、カラスノエンドウである。

このような、日当たりの良い草地を好む。幸い、本校がある大学構内には、このような空き地が何か所もある。整備され切った大学構内ではなく、このような「風致された自然」があることは、小学生の自然観察には、誠にありがたいことだ。

カラスノエンドウ（烏野豌豆）の正式な植物名は、「ヤハズエンドウ」（矢筈豌豆）*Vicia sativa subsp* といい、マメ科ソラマメ属に分類される。花は小さいながらも、“蝶型”と呼ばれる、マメ科独特の形態をしている。花の根元の黒いところが「花外蜜腺」それを囲む小さな葉が「托葉」である。

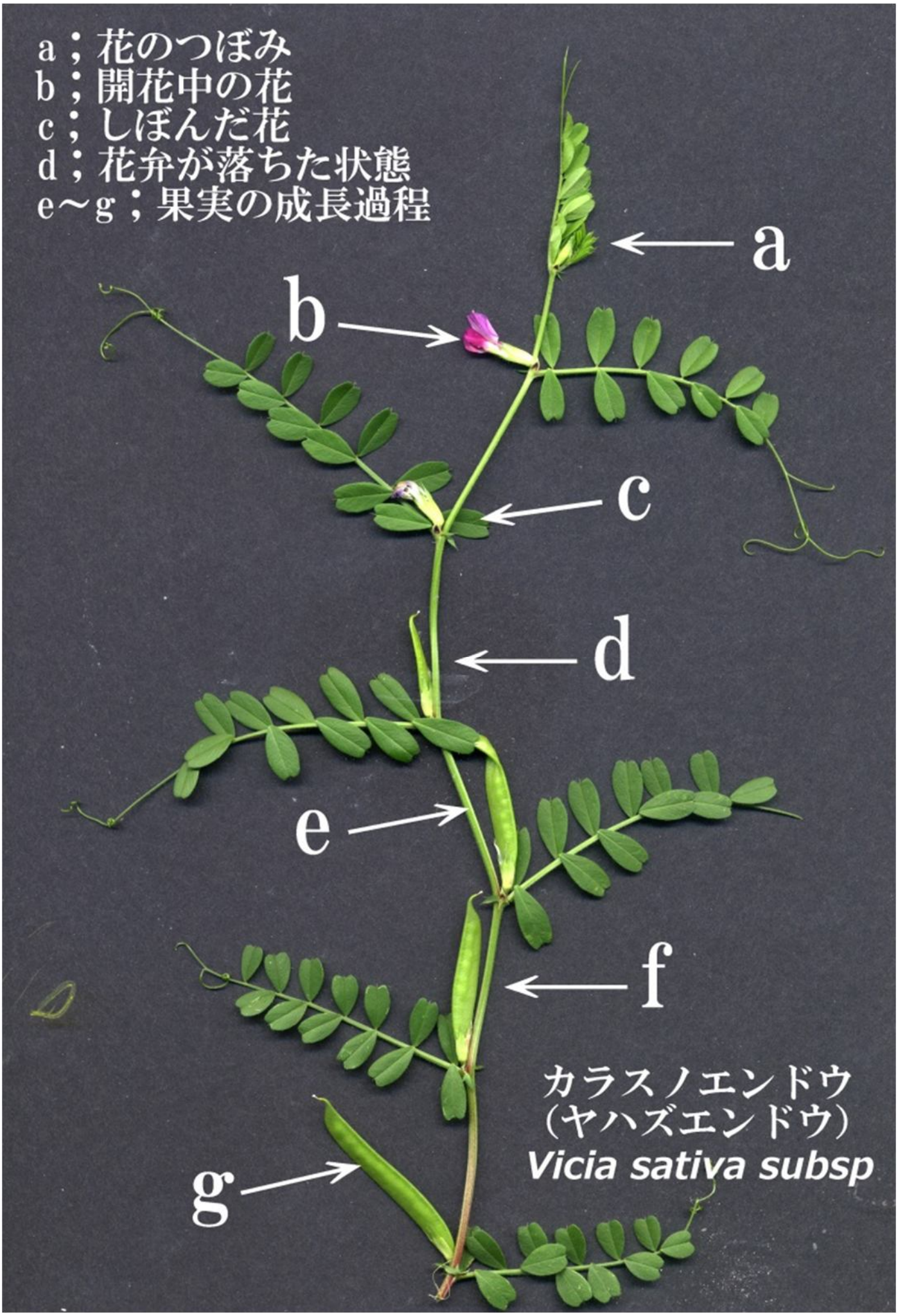
古来は食用にもされ、遺跡からは栽培の痕跡も発見されているという。しかし、現在は特に使い道のない雑草である。しかしこれが、実に教材性の高い“雑草”なのである。



写真は、カラスノエンドウのほぼ全景である。（２ページ目に拡大画像あり）下のほうほど成長していて、上のほうほど若い。

a；花のつぼみ　b；開花中の花　c；しぼんだ花
d；花弁が落ちた状態　e～g；果実の成長過程

花から果実への変化を、１本のつるで、これほど実感できる雑草はほかにないだろう。「優秀な雑草」である。もっと見直されて良い野草だろう。　（つづく）


a；花のつぼみ
b；開花中の花
c；しぼんだ花
d；花弁が落ちた状態
e～g；果実の成長過程
a
b
c
d
e
f
g
カラスノエンドウ
（ヤハズエンドウ）
Vicia sativa subsp